

中部運輸局自動車技術安全部

令和2年6月12日 記者発表資料

Mission 1st

～事故削減に向け、一つずつ着実に取り組む～

(連絡先)

中部運輸局自動車技術安全部

保安・環境課 小林、藤井

TEL: 052-952-8044

7月は「バス車内事故防止強化月間」です

～新型コロナウイルス感染拡大防止の取組と併せ、車内事故防止の取組にご協力を～

7月は「バス車内事故防止強化月間」です

バスの車内事故については、依然として乗客が重傷となる重大事故が発生しており(別紙1)、これを未然に防止するため、中部運輸局では各県バス協会が実施する車内事故防止キャンペーン期間に合わせて、毎年7月を「バス車内事故防止強化月間」に定め、以下の取組を中心に、バス事業者、バス利用者及び一般のドライバーに広く働きかけ、バスの車内事故の撲滅に向け取組を推進しています(別紙2)。

1. バス事業者に対する車内事故防止対策の徹底の要請

各県バス協会を通じ、取組みの徹底を要請

2. バス利用者及び一般ドライバーへの啓発

①各県に所在する競技場等の大規模公共施設の電光掲示板へのポスターの掲出依頼

②各自治体の広報等への掲載依頼

[車内事故防止と新型コロナウイルス感染防止との関連について]

バスに乗車の際は、車内事故防止のため手すり・つり革等を適切に利用していただかなくってはなりません。

現在、新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、バス事業者各社とも運行前後にバス車内の消毒を行っているところですが、運行中も消毒された状態を維持することは現実的に困難です。

利用者のみなさまにあっては、これらの状況をご理解いただき、手すり・つり革等を適切に利用していただくとともに、降車後の手洗いを実践していただくようご協力をお願いします。

なお、バス事業者各社において、消毒のほかにも換気装置の常時作動・窓開け等、利用者のみなさまに安全・安心に乗車していただけるよう様々な対策を講じております(別紙3)。

車内事故に関する統計

別紙1
中部運輸局
自動車技術安全部

本統計は中部運輸局管内で報告のあった自動車事故報告書からバスの車内事故に関する件数等を抽出したものです。

1. 発生件数（年推移）

発生年（暦年）	H26	H27	H28	H29	H30	R1
バス車内事故 発生件数(件)	82	77	52	50	64	59
うち他車に起因（件）	25	24	14	10	19	16
構成比（%）	30.5	31.2	26.9	20.0	29.7	27.1

◆ 発生件数は他車に起因する事故件数も含め、横ばいで推移。

◆ R1年の他車に起因する事故16件のうち、3件は自転車によるもの（すべて歩道から車道への急な飛び出し）。

2. 負傷者の数（年推移）

発生年（暦年）	H26	H27	H28	H29	H30	R1
重傷（人）	9	17	6	10	8	6
軽傷（人）	92	76	51	51	67	61

◆ 負傷者の発生人数は軽傷重傷いずれも横ばいで推移。

3. 負傷者の年齢構成（令和元年）

年齢	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～	不明
負傷者数	17	1	8	7	9	2	23
(65歳以上計): 27							

◆ 高齢者の負傷者が比較的多い一方、65歳未満の負傷者も17件発生しており、負傷者全体の約25%を占める。

4. 事故の類型（令和元年）

類型	立席	着座→立席 立席→着座	着座	乗・降車
発生件数	23	14	23	7

◆ 事故類型は立席及び着座から立ち上がる、あるいは着座しようとする時が計37件と最も多いが、一方で着座中の負傷も23件と多く発生している。

別紙 2
中部運輸局
自動車技術安全部

チラシ・ポスター用 図案

[illegible]

バス車内の感染拡大防止対策の例

別紙 3
中部運輸局
自動車技術安全部

バス事業者では新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各種の対策を講じています。

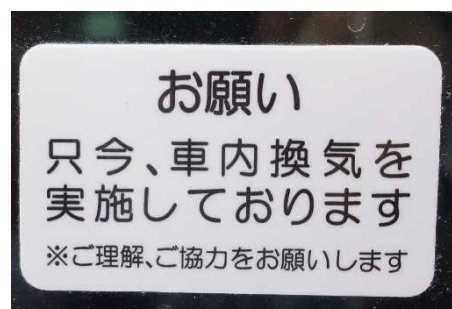
車内の消毒



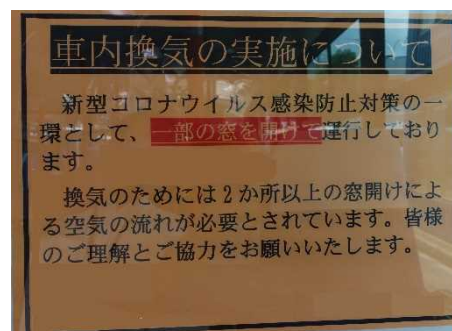
一部窓の開放



実施・表示例



表示例（窓ガラスシール貼付）



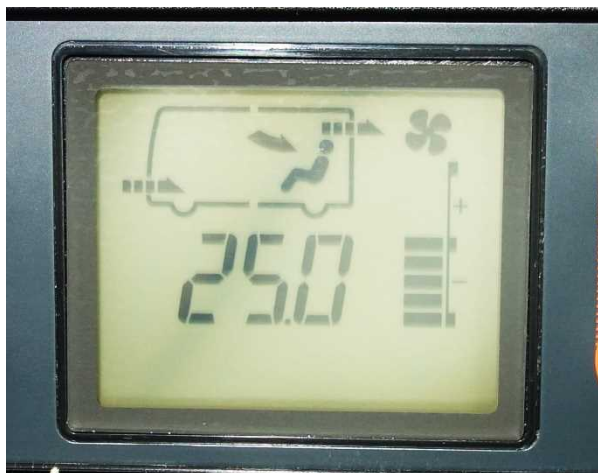
表示例（車内表示）

バス車内の感染拡大防止対策の例

別紙 3
中部運輸局
自動車技術安全部

バス事業者では新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各種の対策を講じています。

換気装置の常時作動



作動状態表示（常時外気導入）



作動状態表示（内気循環）

※車両メーカーの仕様にもよりますが、どの車両も3分～5分で車内すべての空気が入れ替わります

運転者席への飛沫防止シート装着

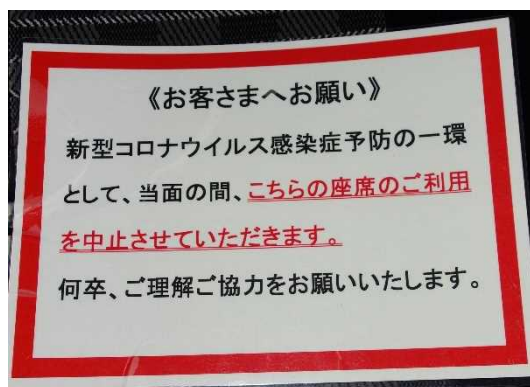


バス車内の感染拡大防止対策の例

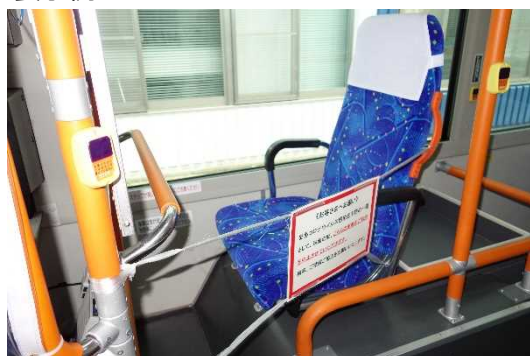
別紙 3
中部運輸局
自動車技術安全部

バス事業者では新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各種の対策を講じています。

運転者席直後座席の使用制限



表示例



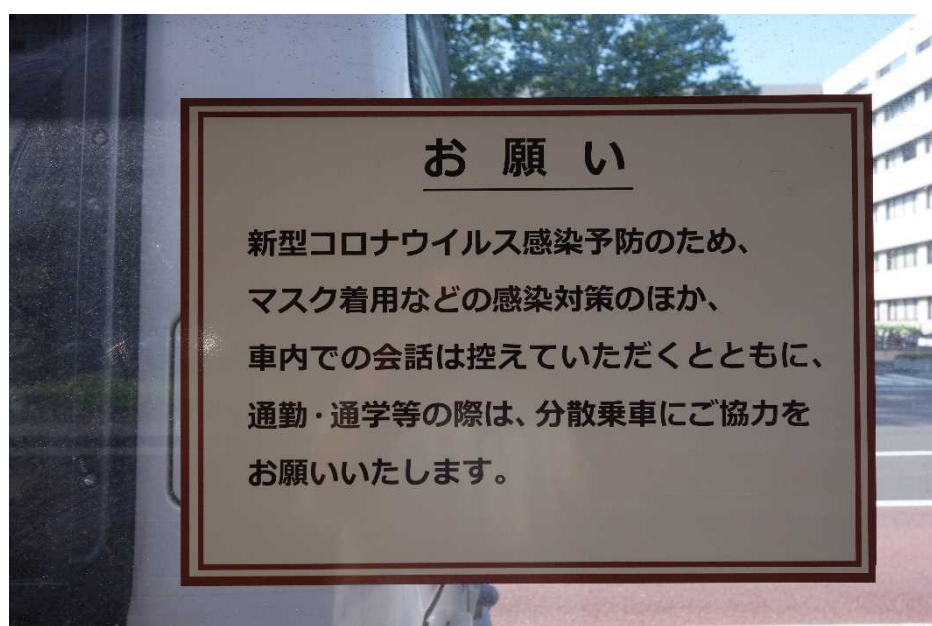
表示例（一般路線バス）



表示例（高速バス）

※高速バスではこのほか予約可能席の制限を実施

乗客に向けた各種対策への協力お願い文掲出例（バス停に表示）



バスが 動いているときは 動かないでください!!!

乗車中は手すりやつり革等におつかまりください
バスの扉が開くまで移動はお控えください



バス車内事故防止にご協力ください

7月は「バス車内事故防止月間」です

～バスの車内事故防止と新型コロナウイルス感染防止の両立に向けてのお願い～

バス乗車中は手すりやつり革等をご利用いただくとともに、
降車後の「手洗い」にご協力をお願いします

乗合バス車内の転倒等により、多くの方が負傷されています。

□車内事故については、年々減少傾向にありましたが、ここ数年は横ばいで推移するなど依然として多くの方が負傷されています。

□負傷された方の年齢構成を見ると、高齢者（65歳以上）の方以外にも17名の方が負傷されており、「車内事故＝高齢者の事故」ではないことがわかります。

□車内事故発生時の類型を見ると、立席時及び車内移動中の事故が負傷者全体の半数以上を占めています。また、着座時の事故も23件発生しているなど、いかなる場合においても事故が発生していることがわかります。

車内事故での負傷者数 （歴史推移・中部運輸局管内）

年	H26	H27	H28	H29	H30	R1
重傷(人)	9	17	6	10	8	6
軽傷(人)	92	76	51	51	67	61

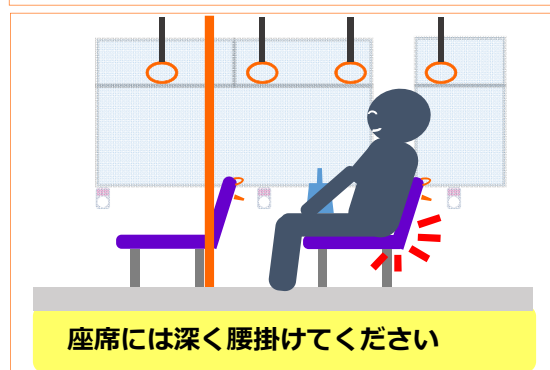
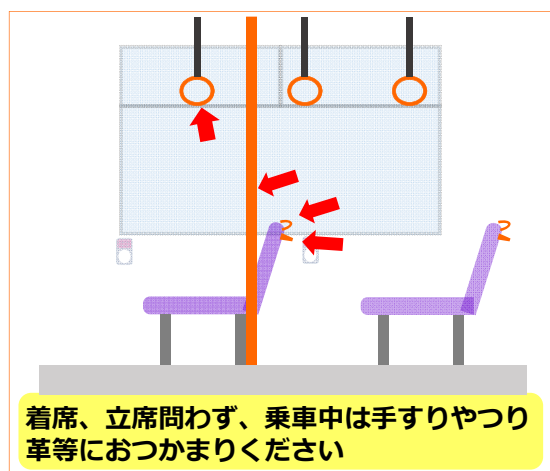
車内事故負傷者の年齢構成 （令和元(平成31)年・中部運輸局管内）

年齢(歳)	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～	不明
負傷者数(人)	17	1	8	7	9	2	23
(65歳以上計)：27							

車内事故の発生類型 （令和元(平成31)年・中部運輸局管内）

類型	立席	着座→立席 立席→着座	着座	乗・降車
発生件数(件)	23	14	23	7

バス走行中は手すり等にしっかりおつかまりください。 立席時のスマホ等の操作は大変危険です！



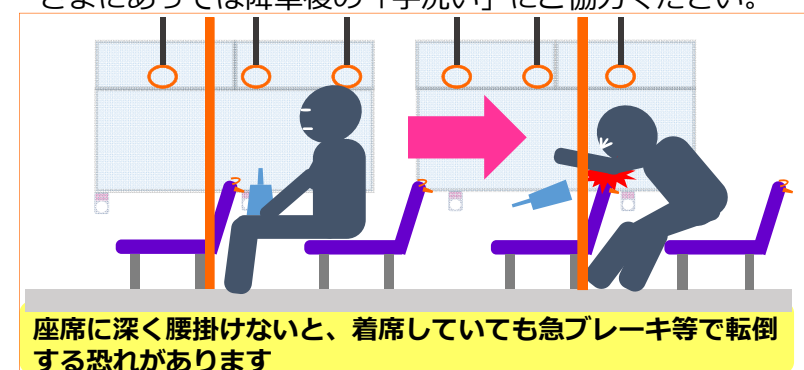
□バス運転者が気をつけて運転していても、やむを得ず急ブレーキを掛ける場合もありますので、バスの急な挙動に対処できるように普段から心がける必要があります。

□バスに乗車したら、立席、着座問わず手すりやつり革等に必ずつかまり、走行中の移動はお控えください。また、お降りの際もバスが完全に停車するまで（バスの扉が開くまで）移動はお控えください。

□特に走行中立席時のスマートフォン等の操作は手が塞がる要因となり、手すり等にしっかりとつかまることができず大変危険です。

□バスに乗車する際には、転倒を避けるための動きやすい服装、手がふさがらないようなかばん（ショルダーバッグ等）を使用するようにしましょう。

□新型コロナウイルス感染防止の一環として、バス運行前後に車内の消毒をしておりますが、常に消毒することはできません。みなさまにあっては降車後の「手洗い」にご協力ください。



お年寄りやお体の不自由な方、妊婦の方、 小さなお子様連れの方に席をお譲りください。

□車内での転倒等の事故は、立席時や車内移動時に多く発生しています。

□お年寄り、お体の不自由な方、妊婦の方および小さなお子様連れの方は、バス車内においてどうしても不安定な姿勢となりがちです。

□上記の方を見かけられましたら、お声がけ、簡単なお手伝いや席をお譲りいただくなど、車内事故防止に向けた取組みにご協力をお願いいたします。

